

地震対策

地震が起きた場合、いる場所や時間の経過とともにとるべき行動が変わってきます。大きな揺れを感じたら、まずは身の安全を守り、揺れがおさまってから行動しましょう。

また、最近は強い揺れが来る前、あるいは強い揺れが来た後に、緊急地震速報が発表されます。緊急地震速報を見聞きしたときは、まわりの人に声をかけながら、周囲の状況に応じて、あわてず、まずは身の安全を確保しましょう。



緊急地震速報とは？

地震計でとらえたデータを解析し、到達時刻や震度を予想し、強い揺れが来る前に可能な限り早く知らせるシステムです。

※震源に近いところでは速報が間に合わなかったり、予測された震度に誤差を伴う可能性があります。

予想震度 **4** 以上で
テレビ・ラジオ・携帯電話
などを通じて発表

マグニチュードと震度

◆マグニチュードとは

マグニチュード(以下Mと表記)は、地震の規模を表す単位です。関東大震災はM7.9、阪神・淡路大震災はM7.3、東日本大震災はM9.0(国内観測史上最大)でした。Mが0.2大きくなると地震のエネルギー規模は約2倍に、またMが1大きくなると約32倍になります。

◆震度6強の被害とは

竹原市における「南海トラフ巨大地震」などによる最大震度6強の被害は、次のように想定されています。

震度6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



地震発生時と直後、場所ごとの行動を知っておきましょう

小さな揺れから大きな揺れになる場合があります。緊急地震速報の発表時はもちろん、小さな揺れでも直ちに身を守ることを優先しましょう。

地震発生! まず身を守ることを優先して安全な場所へ

<h3>屋内</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆転倒落下物から離れ、机の下などへ ◆火の始末は揺れがおさまってから ◆ドアや窓を開けて逃げ道を確保 	<h3>住宅街</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆ブロック塀、門柱や、建物から離れる ◆屋根瓦、ガラスなどの落下物に注意 ◆電線に触れない 	<h3>スーパー/コンビニ</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆買い物かごや手荷物で頭を守る ◆棚から離れた場所へ ◆係員の指示に従つ 	<h3>車の運転中</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆ハザードランプをつけ、左側に停車 ◆崖、橋、海岸など危険箇所から離れる ◆キーはつけたまま、車検証をもって徒歩で避難する
<h3>電車/バスの中</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆網欄からの落下物に注意 ◆手すりや椅子にしっかりつかまるか、姿勢を低くする ◆係員の指示に従って行動する 	<h3>エレベーター</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆全ての階のボタンを押す ◆最初に着いた階で降りる ◆閉じ込められた場合はインターフォンで通報し、救助を待つ 	<h3>山間地</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆斜面や崖から離れる ◆沢や谷には近寄らない ◆荷物などで頭を守る 	<h3>海岸付近</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆ビルの4階以上に避難 ◆元気な人は車を使わず駆け足で移動 ◆いったん避難したら津波警報の解除までどららない

屋内の備え

過去の震災では、家が無事でも家具の転倒等により負傷したり、転倒した家具やガラスの破片等を片付けられず、避難所での生活を余儀なくされるケースが多くあります。安全な部屋作りを今すぐ実践しましょう。

- 大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置く。
- 重たい物は下の段に収納する。
- 玄関や廊下には物を置かない(避難時の妨げになる)。
- 高齢者や子どもの部屋や寝室に、倒れやすい家具は置かない。

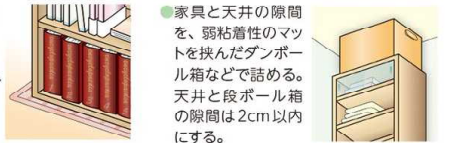


家具類の安全対策

大きな地震では、家具の転倒や食器等の散乱によって、逃げ遅れたり怪我をすることがあります。怪我防止のために、自宅の家具にL型金具等を取り付け、家具の転倒を防ぎましょう。賃貸住宅では、壁への穴あけ等が難しい面があるので、つっぱり棒や粘着性マット等を使用しましょう。

◆すぐに行える転倒防止対策

- 家具の下に滑り止めマットを敷く。
- 食器棚や本棚等では、重いものを下に、軽いものを上に収納する。



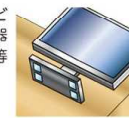
- 家具と天井の隙間を、弱粘着性のマットを挟んだダンボール箱などで詰める。天井と段ボール箱の隙間は2cm以内にする。

◆家具類の固定方法

- テレビ本体とテレビ台をボルト等で固定する。



- テレビ本体とテレビ台をストラップ式器具や粘着性マット等で固定する。



- テレビ本体と壁や柱をロープとヒートン(金具)などを利用して連結する。

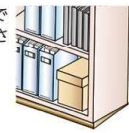


◆タンス等の大型家具

- L型金具やベルト式器具等で家具と壁を固定する。



- ストッパー式器具で家具を壁側に傾斜させる。



- 家具と天井の間をつっぱり棒などで固定する。



◆家具類の固定方法

- 二段重ねの家具は、連結固定器具で上下を連結する(一体化)。



- 引き出しや開き戸には、飛び出し防止器具を取り付ける。



- 本棚等には、落下を防ぐ抑制テープや器具を取り付ける、すべり止めシートを敷く。

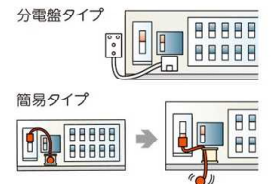


通電火災を防ぐ

近年の大規模な地震の際に発生した火災は、電気による出火が大きな割合を占めています。通電火災を防ぐため、避難するときは必ず電気のブレーカーを切りましょう。

感震ブレーカーは、強い揺れを感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。破損した電化製品の電気配線が通電時に発火して発生する「通電火災」を防ぐことができます。

感震ブレーカーには、右記のようなブレーカーで遮断するもの他に、コンセントで遮断するものがあります。自宅の環境に応じて選択しましょう。また、感震ブレーカーを設置する際は、停電時に点灯する非常用電灯を設置する必要があります。



◆地震ハザードマップ

揺れやすさ

竹原市への影響が大きいと考えられる地震を想定し、「地震の規模や震源までの距離」と「揺れの強さ」によって、「地表面付近の揺れの大きさ」を示したものです。一般的に地盤が軟らかいほど、表層地盤の揺れは大きくなります。

凡	例
赤	6強
紫	6弱
黄	5強
橙	5弱

①南海トラフ巨大地震

南海トラフ全体を一つの領域と考え、大局的には100~200年間で繰り返し大地震が発生しているとして評価されています。

想定地震規模	30年以内の発生確率 ^(※)
マグニチュード 8~9クラス	70~80%程度

(※)算定基準日2017年1月1日 地震調査研究推進本部公表値

②安芸灘~伊予灘~豊後水道の地震

西日本へもぐり込むフィリピン海プレート先端部の地下約50kmの深部で発生するプレート内地震と考えられており、2001年の芸予地震もこの地域で発生しました。

想定地震規模	30年以内の発生確率 ^(※)
マグニチュード 6.7~7.4クラス	40%程度

(※)算定基準日2017年1月1日 地震調査研究推進本部公表値

③どこでも起こりうる直下地震

竹原市本庁舎の直下での地震発生を仮定

全国どこでも起こりうる直下地震への備えを行う必要があることから、竹原市本庁舎の位置を震源に仮定した直下地震を想定しました。

想定地震規模	30年以内の発生確率
マグニチュード 6.9クラス	不明

(※)2013年10月広島県地震被害想定調査報告書による

液状化危険度

液状化とは、地下水を含む地盤が強い揺れで泥水のような現象です。この「液状化危険度分布」は、地形の状況と地表の地震動から液状化の可能性を250mメッシュでランク分けしたものです。

凡	例
赤	極めて高い
黄	かなり高い
橙	液状化
黄	高い
青	危険度
青	低い
白	かなり低い

凡	例
◎	市役所・支所
⊙	警察署
×	交番・駐在所
⊖	消防署・分署
—	緊急輸送道路等
---	市境
—	鉄道

①南海トラフ巨大地震

②安芸灘~伊予灘~豊後水道の地震

③どこでも起こりうる直下地震

竹原市本庁舎の直下での地震発生を仮定

塩田跡地と液状化現象

大正2年に照蓮寺の裏山から撮影した写真を見ると、現在駅や商店街があるあたりは一面塩田だったことがわかります。このような埋め立てによって造られた塩田跡地や海岸、川のそばの比較的軟弱な地盤がゆるく、地下水位が高い砂地盤では液状化現象が起きやすくなります。地震などの揺れによって液状化が起ると、地面には水や砂まじりの泥水が噴出し、泥湿地のような状態になり、下水管やマンホールが浮き上がったり、建物が傾いたり、道路が陥没して通行が困難になるなど、さまざまな被害が想定されます。



大正2年当時の市街地と竹原塩田



現在の市街地